

平成31年2月6日

富里市長 相川 堅治 様

富里市都市計画マスタープラン有識者懇談会
座長 寒 郡 茂 樹

富里市次期都市計画マスタープラン提言書

富里市の次期都市計画マスタープランについては、当懇談会からの意見を基に取り入れられているものがあり、一定の評価をするものであります。今後、本計画の推進に当たっては、行政のみならず市民や地域、事業者等様々な主体による協働のまちづくりが展開され、持続可能で魅力ある都市づくりの実現に向けた提言を下記のとおり取りまとめましたので、その取組が着実に実行されることを強く望みます。

記

1 人口減少や少子高齢化等、人口構造の変化を見据えたまちづくりを図ること

全国的な動向同様、本市においても人口減少や少子高齢化が進行していくことは明らかである。13の村が一つとなり今日の富里が形成されてきた経緯等も踏まえた多極ネットワーク型コンパクトシティの実現に向けた方策を明らかにするとともに、人口減少下においても、持続可能で誰もが暮らしやすいまちの実現に向け、必要な都市機能が必要なゾーンに集積された地域区分を検討することが必要である。また、今後の富里市を担っていく子育て世代が住み良いまち、今後も増加が見込まれている高齢者が安全、安心に暮らせるまちを目指し、幅広い世代の定住促進に向けた方針を示すこと。

2 広域的な交通ネットワークの強化と地域内交通の利便性向上を図ること

成田空港の機能強化による周辺地域への波及効果としては、特に雇用面や産業、物流面で大きくなることが想定される。空港をはじめ、近隣地域と本市の利便性向上に資する道路整備の実現、バス等の公共交通の充実に向けた方針を示すこと。また、鉄道駅のない本市においては、バスサービスの維持及び拡充が不可欠である。自動運転等の技術開発が進んでいること等も踏まえた今後の公共交通の在り方を明らかにすること。

3 効果的かつ効率的な都市基盤整備の充実を図ること

道路や下水道、公共施設等のインフラ施設における老朽化の進行が課題となっており、生活の安全性を確保していくためにも適切な維持管理を図っていくことが必要である。一方で、人口減少が進むとともに、市の財政状況も逼迫していくことが予想されることから、地域特性に応じた基盤整備の在り方を明らかにするとともに、既存ストックの活用を図るなど、効率的な維持管理に向けた方針を示すこと。

4 産業振興による地域活力の向上を図ること

本市の基幹産業である農業では、すいかやにんじんの産地として発展してきたが、担い手不足や農業従事者の高齢化の進行等により、活力低下が懸念されることから、持続的な発展に向けた方針が必要である。また、商業施設が集積する地域については、様々な機能を集積し、拠点的な機能を高めながら、空き家や空き店舗等の有効活用も含めた活力向上を図っていくことが必要である。さらに、地域活力の向上に向けては、交流人口の拡大を図っていくことも重要であることから、旧岩崎家末廣別邸の交流拠点化等によるにぎわいの創出に向けた方針を明らかにすること。

5 防災対策の強化と防災意識の醸成を図ること

東日本大震災以降、市民の防災に対する意識は高まっており、市民や事業者、行政等が一丸となって防災対策に取り組んでいくことが重要である。インフラ施設に対する耐震化などのハード対策のみならず、防災に関する情報発信や防災訓練の実施等のソフト対策両面に対する方針を示すこと。

6 様々な主体による協働のまちづくりを図ること

人口減少下においては、市民の力、地域の力、事業者の力など、様々な主体による協働のまちづくりを推進していくことが非常に重要となる。市民や地域との協力、支援体制の構築、強化や、民間活力の積極的な導入に向けた方針を示すこと。

これらの提言を踏まえた取組を実行に移す際は、上位関連計画との整合を図りながら実施していくとともに、その効果検証を行いながら、適宜計画の見直しを行うこと。

富里市都市計画マスタープラン有識者懇談会

座長	寒 郡	茂 樹
委員	小 川	剛 志
同上	鎌 田	元 弘
同上	関 谷	昇
同上	川 島	年 雄
同上	市 原	重 信
同上	関 口	順 一
同上	関	寛 之
同上	渡 邊	薫
同上	宮 川	朱 実
同上	栗飯原	有 禧
同上	込 山	克 司
同上	鶉 澤	尚 夫
同上	大 道	正 義